

第5学年 国語科学習指導案

日時：平成28年10月27日（木）第5校時
 場所：5年1組教室（3階）
 授業者：森本 美穂
 児童数：30名

1 単元名：すぐれた表現に着目して、
 物語のみりよくを伝え合おう
 教材名：大造じいさんとガン

2 指導の立場
 (1) 児童の実態

4月に学習した「あめ玉」に次いで2つ目の「物語教材」である。登場人物の心情をこまかに読み取ったり、人物相互の関係やその変化をつかんだりする学習には、まだまだ苦手意識が強い。この教材では、自分の読み取りを基にして、グループの仲間と読み取ったことを交流する。温かな人間関係が育ちつつある子供たちは、仲間との話し合いを好むため、グループでの学習形態を活用することで、学習効果が高まると考えている。

(2) 本時の指導にあたって

【単元指導計画の工夫】

「作品のみりよくカード」にまとめる活動を行う。読み取りの蓄積をもとに、それまでの読み取りを生かして作品をつくることで、相手意識をもって学習できると考えてのことである。

本教材では、「すぐれた表現に着目すること」を大切な言語活動であるとしてとらえ、ここで初めて、情景描写という表現を学ぶ。第2次前半で、言葉、行動等から読み取ってきた大造じいさんの「残雪」に対する気持ちを、本時では、「情景描写」に着目して全体から読み取ること、読みが深まるだけでなく、すぐれた表現に着目する大切さを学ぶことになり、今後の読書活動につながる力が育つと考える。

【指導方法・指導形態の工夫】

本単元では、一人読み、グループ交流、全体交流という流れで学習を進める。自分の考えを付箋に書いてから話し合い、全体でも読み取りを広げるという活動を行う。グループ交流では、立場を明確にして話し合ったり、ポイントを絞った短い表現や矢印等を使って構造的にまとめたりすることで、児童が主体的に、協働的に働くことができると考える。これらの活動の中で、学んだことを手がかりとし、自分の考えを表現できる力を育てたい。

【学習環境の工夫】

ICT機器の検索機能を使うことで、読み取りの助けとしたり、内容を拡大して映したりすることで、登場人物の心情を読み取る助けとする。

3 本時の目標

情景描写に着目し、大造じいさんの「残雪」に対する気持ちを読み取ることを通して、印象に残ったすぐれた表現を見つけて伝え合うことができる。
 (読むこと エ)

4 本時の展開 (5/8)

【評価規準】 ※ICT活用について

過程	過程の目標	主な学習活動	指導・援助
つかむ	○前時を振り返り、本時の課題をもつことができる。	1 本時の課題を確かめる。 場面の様子や風景を描いた表現（情景描写）から大造じいさんの気持ちや性格などを読み取り、友達と交流しよう。 2 本時の学習の流れをつかむ。	・本時は、文章表現の中の「情景描写」に着目するということを、教科書P134で再確認する。
ふかめる	○本時の課題を意識して個人追究することができる。 ○読み取ったことを仲間と交流し、読みをさらに深めることができる。	3 一人読みをする。 ・言葉を抜き取り、読み取ったことを書き込む。 4 読み取ったことをグループで交流する。 1段落 P118 8行目「秋の日が、美しくかがやいていました。 2段落 P120 11行目「あかつきの光が、小屋の中にすがすがしく流れこんできました。」 ・「あかつき」というのは明け方、夜明けのことですが、一度、画像を見てみましょう。この、赤色の画像から、どんなことを読み取りますか。 ・前の時間の読み取りでは、タニシ作戦がうまくいきそうに思えて、うれしくて、心から安心して満足している大造じいさんの気持ちを、「会心のえみをもらしました。」から読み取りました。この情景描写の「あかつき」というところからも、大造じいさんの、「やってみようぞ、という気持ちがさらによく伝わってくると思います。 ・私は、「すがすがしく流れ込んできました。」の、気持ちがいい朝の様子から、ガンをねらいうちしようとしている大造じいさんの、どこか冷静な心を読み取りました。 ・私は、闘志みなぎる大造じいさんの気持ちを、この情景描写でより深く読み取ることができました。 3段落 P124 9行目「青くすんだ空を見上げながら・・・」 P124 13行目「東の空が真っ赤に燃えて、朝が来ました。」 P128 4行目「羽が、白い花卉のように、すんだ空に飛び散りました。」 4段落 P131 3行目「らんまんとさいたスモモの花が、その羽にふれて、雪のように清らかに、はらはらと散りました。」 5 全体交流で読みを深める。 ・友達の考えを聞いて、自分の読み取りと違っていたり、さらに的確な表現があると考えたりした場合は、意見を交流し合う。	・本時の読み取りの助けとなるよう、既習の掲示物では、読み取りの手がかりとした、大造じいさんの言葉、心情・行動描写を色分けする。 ※「あかつきの光」「青くすんだ空」「真っ赤に燃えた空」「雪のように」「らんまんとさいたスモモの花」等の映像を、タブレット型PCを使って映し出し、各グループでの読み取りの助けとする。 ・班での話し合いの前に、各児童は、読み取りをふせんに書いて貼っていく。どうしてその読み取りになったのかを、理由を付けて表現するように指導する。 ・班の交流では画板の上の紙に、児童が付箋を貼りつつ自分達で読み取りを深めている、的確な言葉で児童がまとめていけるように、キーワードを与えたり、うまくまとめている班の様子を伝えたりする。 ・各班を巡視して、的確なまとめ、構造的なまとめができていたら認め、価値付ける。 ※各班で読み取りまとめた模造紙を黒板に貼って代表者が説明するとき、すぐれた読み取りを書いた付箋については、タブレットで映し出して紹介する。 例：「こんな読み取りがありました。」
まとめる	○仲間との交流で深まった読み取りをもとに、大造じいさんの気持ちを自分の言葉でまとめる。	6 情景描写のどれかひとつについて、自分の言葉で大造じいさんの気持ちのまとめ直しをし、隣の児童に紹介する。 時間をかけて準備したタニシをうんとこさまいたので、四、五日前の群れの様子からしても、大造じいさんは、今回は絶対に残雪をしとめられると確信しています。その気持ちが、「あかつきの光が、小屋の中にすがすがしく流れ込んできました。」にこめられています。特に、「あかつき」の赤色から、その期待と興奮がよく分かります。「すがすがしく」からは、自分の作戦への執念が伝わってきます。残雪をしとめることへの大造じいさんの気落ちが生き生きと伝わってくるので、この情景描写はすぐれた表現だと思えます。 わたしは、4段落から情景描写を見つけました。その後の「おうい、ガンの英雄よ。」に続く、大造じいさんの晴れやかな気持ちを、「らんまんと・・・」から読み取ることができました。	情景描写に着目して大造じいさんの気持ちを読み取り、友達との交流から、情景描写のよさが分かり、自分の言葉でまとめることができる。 (読むこと エ)